

関係機関・団体長  
病害虫防除員  
農薬管理指導士 } 様

山口県病害虫防除所長

ミナミアオカメムシの発生と防除対策について(技術資料第7号)

このことについて、技術資料を下記のとおり送付しますので、防除対策の徹底をよろしくお願いします。

記

- 1 対象作物  
水稲、ダイズ等
- 2 対象地域  
県内全域(特に冬期の気温の高い沿岸地域)
- 3 発生状況  
(1)本虫は、本年水稲(ひこばえ含む)やダイズ等のほ場で確認された。  
(2)本虫は、本年県内の予察灯で誘殺され、8月以降萩市大井を除いてアオクサカメムシの誘殺数を上回った(表)。  
(3)10月下旬に4月移植の極早期栽培ほ場やコシヒカリ、ひとめぼれ等極早生種を栽培したほ場のひこばえをすくい取り確認した結果、防府市大道干拓、防府市切畑、山口市秋穂町、柳井市馬皿、下関市小月で発生が確認され、極早期栽培ほ場で多発している傾向があった。
- 4 今後の予想  
(1)本年、水稲のひこばえ等で発生が多く確認されていることから、冬期の温度が高かった場合、越冬を経て春先以降には増殖し、翌年の水稲において極早生種を中心に斑点米発生の被害を受ける可能性がある。  
(2)今後、本県においても斑点米カメムシとして被害を与える主要な種になる可能性がある。  
(3)ダイズでは莢内子実の吸汁被害を受ける可能性がある。
- 5 防除対策  
稲穂をつけた「ひこばえ」の発生しているほ場は翌年の発生源となる可能性があるため、早めにすき込む。

(表) 県内の予察灯における誘殺状況(8月16日~10月28日)

	下関市清末	宇部市楠	山口市大内御堀	山口市大内長野	萩市大井	岩国市玖珂町
ミナミアオカメムシ	133	5	8	3	1	17
(参考) アオクサカメムシ	3	3	2	0	34	7

)「ひこばえ」とは、収穫後、稲の刈り株から再生した稲のことです。

(参考資料)

## ミナミアオカメムシについて

- 1 発生生態等(写真1、2)
  - (1) 外観はアオクサカメムシに酷似し全体が緑色である。
  - (2) 広食性の種で多くの農作物を吸汁加害するが、特に水稻やダイズの寄生・加害による被害が懸念される。
  - (3) 水稻では穂を吸汁し斑点米の原因となる。成虫・幼虫が開花直後から収穫時までの登熟期間を通じて加害する。斑点米を発生させる能力は他の斑点米カメムシに比べ高く、九州や四国南部では斑点米カメムシ類の主要種として認識されている。
  - (4) ダイズでは莢内の子実を吸汁するため、莢は落ちるか肥大せず緑色のまま収穫期まで残ることがある。
  - (5) 九州では、4月から活動を始め、ジャガイモ、イタリアンライグラス、麦、大豆などの作物や休閑田、畑地などのイネ科、タデ科雑草に飛来し繁殖する。
  - (6) 九州では、年3～4世代を経て成虫で越冬する。
  - (7) 越冬場所は比較的乾燥した場所を好み枯れたイネ科植物で覆われた地表面や積み藁の中、常緑樹の植え込みや生け垣、茂みなど様々な場所で確認されている。
  - (8) 最寒月の平均気温が5℃以下の地域では越冬できないとされている。
- 2 ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの主な見分け方  
別添を参照
- 3 防除対策  
従来の水稻の斑点米カメムシ及びダイズの吸実性カメムシ類の防除対策に準ずる。



(写真1) ミナミアオカメムシ成虫



(写真2) ミナミアオカメムシ5齢幼虫

(別添)

## ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの主な見分け方

ミナミアオカメムシ

アオクサカメムシ

全体の体型

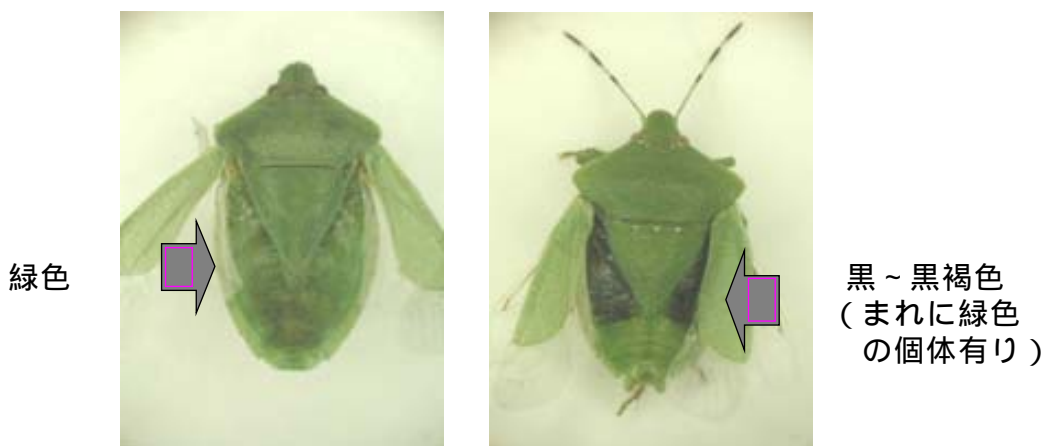
アオクサカメムシ  
よりやや細長い

ミナミアオカメ  
ムシより幅広

前胸背側角



腹部背面



結合板

